

# 校報かめのこ

福生六小ホームページ <http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



## テレビのない夏

福生市立福生第六小学校

校長 富永 大優

夏休みが終わり、子どもたちが元気に学校に登校してきました。夏休み前よりも随分背が高くなった子、頼もしい顔つきになった子など、ひと月ちょっとの間にも子どもたちが大きく成長していることを感じました。そして、各教室からは、子どもたちの元気な声が聞こえてきています。

さて、この夏は、パリオリンピックや高校野球など、見どころがたくさんありました。しかし、我が家ではテレビが壊れてしまい、そのほとんどを見ることができませんでした。そのため、新しいテレビが来てからダイジェスト版を見て、ようやくその様子を知ったという状況でした。もちろん今はインターネットで見ることにはできるのですが、スポーツは一人で見るというよりも家族と一緒にみたいと思う人間なので、パソコンで見ることはありませんでした。そんなこともあり、この夏は、娘や息子と話す機会がいつもより増えたような気がします。

以前、テレビの情報番組で、親と過ごせる残り時間について取り上げられていたことがありました。大学の教授が説明をしていましたが、とてもびっくりしたのは以下の内容です。

- ・我が子と生涯で一緒に過ごす時間 母親:約7年6か月 父親:約3年4か月
- ・幼稚園、保育園等を卒園する頃にはその約32%が過ぎ去り、小学校を卒業する頃にはその約55%が過ぎ去り、高等学校を卒業する頃にはその約73%が過ぎ去る。

いわゆるコミュニケーションをとっている時間のようなのですが、それでも生涯で一緒に過ごしている時間が父親は約3年4か月というのは衝撃でした。そして、小学校を卒業する頃には、半分以上の時間が過ぎ去っているということでした。子どもたちも年を重ねるごとに家族以外との関係も深まり、その人たちと過ごす時間が増えていくのは、仕方がないことです。だからこそ、一緒に過ごしているこの限りある時間を大切にしたいと改めて思いました。テレビがないことで、そんなことを考えた夏でした。

私たち教職員も子どもたちと過ごせる時間を大切にしていきたいと思います。2学期もどうぞよろしく願いいたします。